

平成30年度第1回学校教育審議会 記録

平成30年7月27日15:00～
市役所東庁舎 第3会議室

〔出席委員〕西坂千代子、吉田知子、井中貴史、伊木香代、松田恵、笠見猛、瀬尾津喜恵
藤山正明、黒川泰、名越和範、松井幸伸、山下千之、佐々木敬宗、加嶋慎一（敬称略）

委嘱状机上配布	
1 開会	
司会 教育長	開会の宣言 開会挨拶
全員順番に	自己紹介
司会	資料確認・会の時間の予定確認 会長、会長職務代理選出
2 報告	
事務局	協議事項（1）（2）について資料に沿って説明
3 協議	
会長	まず「学力向上の推進」のところで協議をしていきたいが、今回示されたデータについて分析をもう少し話してほしい。
事務局	アンダーアチーバーのところは小学校では大体5～7%になっている。この割合が中学校では、約2倍になっている。つまり持っている力をなかなか発揮できずにいる子供たちが増えている現状がある。よりきめ細やかな指導を中学校でもしていく必要がある。
委員	ここ5年ぐらいで学力の進展具合はどうなっているか。
事務局	ずっと経年の調査をしている。年なりはあるが、だいたい倉吉の子どもたちは標準偏差でいくと全国を上回っている状況だとはいえる。それなりの力はつけているが、先ほどお伝えしたアンダーアチーバーについては、似たような傾向が続いている。
委員	ちなみに東部、西部と、地区的な比較ができるようなデータはあるのか。
事務局	NRT（標準学力検査）というテストについては、東部、西部との比較というのはない。全国比較になる。
教育長	高校入試で比較すると東部、西部に比べて中部は低い。これはずっと大きな課題となっている。
委員	先ほどの経年の話では、倉吉の子は平均的には高いっていうことだったが、（高校入試の状況と）相関関係はないということか。
事務局	こういったテスト類については年度初めは東部、西部よりも中部がいい。それが最後の高校入試になると逆転されてしまう状況がある。
委員	その背景は分析しているのか。
教育長	一つには高校入試の倍率が低いことがある。これは子どもらにかなり影響していると思う。もう一つは個々の生徒によって学習に向かう意欲にすごく差があると感じている。これは中学校だけの問題ではない。小学校や、もっと言うと保育園の頃から、しっかり積み上げていかないといけない。このことを一生懸命やりたいという積み上げがもう少しいるのではないかと強く思っている。
委員	子どもたちをどう育てるかということ、少なくとも学力の今日的な状況や背景について、保護者に理解を求めて保護者自身にも努力していただく、そういう場が必要なのではないか。
教育長	たとえば地域学校委員会でもデータを示して、学力の状況を説明している。学校によっては夏休み前の懇談等で学校長が自分の学校の学力状況について説明をしている。また、学校便りにも、全国学力状況調査の結果については公にすることをやっているの、それなりには取り組んではいる。

委員	<p>地域学校委員会で資料は提供されるが、申し訳ないが議論が難しい。決して学校側とか先生側を追及するというのではなくて、あの場ではやはりやりにくい。失礼なのではないかと。組織なので、辛辣に話せるような環境ではないと思う。</p>
委員	<p>子どもの学習支援で未来塾をさせていただいている。はばたき教室ということで、去年は支援が必要な子どもたちが来て、それぞれが進学をしていった。今年、中3の子どもたちを見ているが、ここでは本当に必要な支援を届けていると思っている。</p> <p>去年から不登校だった子どもたちで、それぞれ新しい学年に進級した子に「学校で勉強できとるか」と聞いたら「相談室に行って何もしてない」と言っていた。そういう話を聞くと、1年や2年からでも未来塾で見てやりたいという思いになる。</p> <p>学力も小学校の段階から十分につけてない。そして中学校に上がって不登校になったために、余計にまた落ちる。小学校5、6年の学力がついたなと思っても1年も勉強をしなかったら小学校3、4年にどんと落ちてしまう。あるいは漢字も忘れてしまうので書けなくなってしまふ。そういうところにやはり手を入れなはいといけない。</p> <p>それと、不登校だとか、問題行動を起こしている子どもたちに、どこかに居場所を作ってやらなければいけないという思いがあるが、学校にもルールがあり、家からもルールがあつたりなかったり、いろいろな状態で見てもらっている子どもがいる。子どもが自由に自分の思いを発散できる場所を作ってやらないと、たぶん魅力ある居場所にはならないのだろうと思っている。子どもたちが学校の中で信頼できる人が一人でもいて、自分の思いや困ったこと、家庭の中での不満などがちょっとでも言えるところがあるのかということ、なくなってきているという気がする。</p> <p>やはり信頼できる大人がどれだけいるのかということところが小学校においても中学校においても大事なところだと思う。中学校においては特に性の問題が非常に重要な問題だと思う。学校で一目おとなしそうに座っているが、いざ学校を離れた時間帯でどういう動きをしているのか。スマホやiPadで、どんなことをやっているのかということを見ると、やはり親子関係が崩れていたり、学校に信頼できる大人はいないとか、そういうことが根っこにあるのではないかと思う。命の重要性とか、あなたたちの存在が重要だということ子どもたちに伝え、意欲が欠落している状態の子どもをどうしていくかいうところに手をかけないと、本当に大変なことになると思う。</p>
会長	<p>今、「豊かな心と体の育成」の方にも話題が進んだが、「学力向上の推進」のところに戻らせてもらおうと、問題がどこにあるかという点にしても、データがどのようなものかによって意味も変わってくる。例えば大学入試の模試だと、何人参加しているか、受験者層がどうかによって、同じ数字でも意味が全く違うことが常識となっている。それを踏まえた上で、NRTの結果が、小学校6年の1月と、中学校1年に進級した4月とでは結構大きな違いに見えるが、これは問題が違うのだろうか。</p>
教育長	<p>問題は違う。6年生の時にする問題は、4～6年の3年間分の中から問題が作られるが、中学校1年生が受けるのは、もうちょっと範囲が狭かったと思う。中学生が受けるのは、問題の難易度が上がっている。</p>
会長	<p>範囲が狭い分、レベルが上がる。そうなると、ちょっと難しくなると急にできなくなるという傾向があると読めばいいのだろうか。</p>
教育長	<p>それから春休みに遊びすぎているのではないかとということがあり、春休みに中学校が毎日取り組める宿題帳みたいなものを作って、卒業生する6年生に配っていくようなことも何年か前から取り組んでいる。それを中学校の入学式の日を集</p>

	めてチェックをして本人に返している。
委員	その宿題は学校によって違うのか。
教育長	問題は学校によって違う。
委員	私の家は社小校区なので、中学校は東中と西中と久米中の3校に分かれることになるが、宿題の分厚さからして学校によって全然違っていった。学力に関して家庭学習を自ら進んでできる子ばかりならいいが、できない子が今多い。私の家庭には高校生から保育園児までいるので、姉が小学校の今の学年の時には、もう少しあったような気がするが、今、すごく少ない。同じ小学校の中でも、うちの子は4年生だが、すごくむらがあったりする。高校生の姉が小学校1、2年生の頃は、結構落ち着いた先生が多かった。年齢的にも落ち着いた、経験のある先生方が1、2年に土台を作ってくださり、3、4年生の中だるみの時期に持ち上げてくれることが多かったが、1、2年生の担任の先生が新卒の講師の先生で、どちらかという保護者とのコミュニケーションをとるのがちょっと難しいような方が担任になるケースが、ここ最近多いと思う。私は学力に関しても何にしても、先生と保護者が協力をしなくてははいけないと思っている。いろいろなことが繋がれる関係であれば、いろんなことがいいふうになっていくのに、そのところが実際には難しいのかというのもある。
教育長	中学校の宿題の量については改善したい。
委員	前は久米中は宿題が多いと、以前の校長先生の時は言われていた。夏休みに入る前の校長先生のお話では「塾に行かなくてもいいぐらいの宿題を久米中では出しています。」ということだった。今は少なくなってしまったのだろうか。他の学校のことまでは知らなかった。
委員	今は、子どもたちが簡単に繋がれる。出身の小学校が違ってても中学校で繋がったりというのが簡単にできてしまうので、そういう情報が、私たち保護者でもネット上から拾えたりする。親が言うことよりもネットの世界が全てだという子もいるので「あその子はせんでいいのに、何で俺らはせんといけん」みたいな話が出てきてしまうと、「うちはうち」とは言うが、それが通用しなくなっていくことが怖い。ネットは決して怖いものではないし、大人になって必ず使わなくてははいけないものなので、上手につきあえるつきあい方をきちんと教えていかないとはいけないと思うが、難しいところがある。
教育長	話は逸れるかもしれないが、ネットにかかわっては、小学校6年間と中学校3年間の9年間、学校で情報モラルについて勉強させたい。鳥取県のやり方は「学校には携帯いらぬもの」として、社会教育の担当の方に学校に入ってもらって年間に1回講演してもらおうとか、そういうやり方でやってきた。今はそんなことでは間に合わない。学校がきちんと時間を確保して、情報モラルなり、ネットの使い方なりを教えて年齢に応じてきちんと積みあがるようにしていかないとはいけないと思っている。そこはもう少し時間かかるが頑張りたい。そうすれば高校も困らない。高校1年生の担任は、とても大変である。春にみんながスマホを持ちだして、悪口書いただの、写真載せただの、ネット絡みで物凄いトラブルが起きている。
委員	スマホは学校内で見られるのか。西高、東高は学校内では見られない。他の学校は。
委員	どこも学校の中ではダメとなっている。
委員	でもやはりそういうことが起きている・・・。
教育長	いろいろなところから苦情や、困ってるということが先生のところに入ってくる。そうすると当然、高校の先生も指導しなければならない。
会長	家庭や生徒は先生や学校を選べない。だから、「あの先生が担任になってしまった」とか、「あの教科の、あの先生に当たってしまった」とか、「この学年で伸びなかった」とか言われる。できるだけそういうことにならないようにしなけ

	<p>ればならないが、結果としてそうってしまったら生徒や保護者にとっては不信の種になる。学校の中に、「自分のクラスだけ良ければいい」とか、「自分の教えている教科がうまく行けば、あとは知らない」という人がいると、その人だけ良くて学校全体としては焼け石に水。学校に対する不満の声はよく飛び交うので、教育委員会には学校内で学年・クラス・教科による大きな差が出ないようにするにはどうしていけばいいか考えてほしい。</p> <p>さっき言われた高校入試の問題では、基本的になぜ中部の倍率が低いのかということの理由をご存じないかもしれないので、ちょっとはなしておいたほうがいいかもしれない。</p>
教育長	理由はいくつかある。
会長	自分たちでどうこうできる問題ではないので、そういうことを知った上で議論とか、意見とかを出していくべきだと思う。
教育長	簡単に言うと、東部、西部の高校に流れる生徒がかなり多いということも一つある。それと生徒の数自体が減っているのはご承知のとおりで、生徒の数に対して、高校の定員の方が多いということがある。
会長	これ以上努力しなくても入れるとなったら、中学生はもっと頑張らないといけないという気はやはり減る。だから中部が高校入試の最後のところで伸びなくなってしまうのはある意味自然だと思う。自然を不自然にするのは大変な努力がいる。ただ、そういう背景というものを知った上でどうするかということの議論をしないと、先生がさぼっているのではないと言われる。
教育長	ありがとうございます。
会長	もっといろいろあるかもしれないが、「学力向上の推進」についてはよろしいか。先ほど出ていた「豊かな心とたくましい体の育成」についてはどうか。
委員	学力もだが、体力というものに注目してみると、今学力がついていない子が出て、力仕事ができるかといったら、できないという状態がある。たとえばコミュニケーションが取れないので、接客業でバイトもだめ。これをどうするかと思っている。県の会議でもあったが、実際に第一次産業、農業・農林漁業に就いていくという人材を、ちゃんと育てていかないといけないと思う。それだけの体力が、中学校や高校を帰宅部のような状態で卒業した子どもたちには十分についてなくて、なかなか働けない。根が続かない。そういうところを何とかしないと危機的な状況だと思っている。勉強も確かに大事で、子どもたちには「中学校卒業程度の勉強っていうのは大人になってから必須だよ」とアドバイスしつつやっているが、今度は体力。本当にか弱い。全部ひっくるめていくと、やはり究極のところ、子どもの貧困という部分が大きな影を落としていると思う。いろんな経験を豊富に積んで、学力や体力がついていくが、そこに大きな差がある。学習環境もない。食の環境も「えっ」と思うような状況の子どもたちがだんだん増えていくような状況の中で、何とか手立てしないとこの先、未来はないと思う。
教育長	今日、校長先生がいらしているが、関金小学校は体力づくりで体幹トレーニングに取り組んでいて、私も今おっしゃったことは、すごく大事だと思う。「体力づくりで学力向上みたいな研究をしませんか」と何年か前からずっと言っているが、(研究は)やはり国語や算数に偏っている学校が多い。
会長	成果はどうか。

委員	<p>関金小学校は体力づくりには、かなり一生懸命取り組んでいる。朝運動は4年生以上がしっかり毎日やっているし、4年生以上がするのを見て、1年生から3年生も「僕もやりたい」と言って一緒に同じようにしている。去年、教育委員会の紹介で、学力は体づくりからというようなことで取組をさせてもらい、何度か研修会を開いたが、やはり体幹を鍛えるということが姿勢の保持にもつながるし、鉛筆の持ち方とか、いろいろなことに効果が出てくる。体幹を鍛えるのにバランス力が必要だということで、船上山で活動した中で、「これ使えるな。」と思って思いついたのが、4.2センチの細い角棒、これをバランスよく乗って渡り続ける。これが意外と難しい。これくらいの角棒を一人に一本用意をして、雨が降って遊べない時などに5分間教室で、その上に乗って片足で立ったり、落ちないように屈伸をしてとか。それを一列にずらっと並べて、10メートルくらいを渡り切るとか、そういうようなことを少しづつ続けているところ。これだけでは並べたりするのが大変なので、2メートルの長いものも十何本買ってきて、体育館にずらっとコースを朝作り、来た子から順番に、そのコースを何人最後まで渡り切れるかということに取り組んでいる。走るのだったら回数が終わったら、さっさと教室に上がってしまうが、この運動はやはり楽しいようで、もういいと言うまで4年生から6年生まで一生懸命挑戦している。</p> <p>この前は学年対抗の角棒渡り選手権をやった。あまりそれには差がないので。学年によって。5年生が優勝したが、そういうようなことを意欲づけをしながら、ずっと続けていきたいと思う。ただ体幹を鍛えるというのは、何年続けて成果が出るというものなので、これはせっかく始めたのでずっと続けていって、結果をみてみたいと思う。結果が出るかどうかは、まだわからない。</p>
教育長	ぜひ継続をお願いしたい。
委員	<p>今でもやっているのかわからないが、高城小学校でも毎日子どもたちが校庭を3周とか走って、42.195キロ達成したら写真を撮って貼り出すっていうのをやっていた。結構ほとんどの児童が42.195キロを達成して頑張っていたと思う。今、私の子どもは一番上が高3、次が高1、中2だが、高校生の子で、普通に自転車で行けばいい距離を、毎日保護者が送っていくというようなのが結構ある。天気の良い時ならまだわかるが、もう通年、保護者が送っていく。体力といわれたが、保護者の方も子どもに対する甘やかしというか、そういうのもあるのではと思う。私もたまに暑い時とか、ちょっとした雨でも「送ろうか」と言ってしまう時もあるが、なるべく子どももカッパ着て通わせるようにしているが、親が甘くなっているところもあると思う。</p> <p>スマホに対してもそうだが、高校に入ったら持つのが当たり前、持たせるのが当たり前のような考え方になってきた気がする。親に対する自覚みたいな、持たせ方というのも大事ななと思う。</p>
教育長	<p>学校はどうしたらそれができるのか。本当にこれを伝えたいという保護者になかなか来てもらえないということもある。たとえば参観日に学級懇談を設定し、10人残ってくだされば「今日はよかった。ようけ残ってもらえた。」みたいなところがある。実際には子どもは30人ぐらいいる。ほとんどの保護者が揃っていただけののは、入学式か卒業式ぐらい。あとはなかなか。運動会や文化祭にもたくさん来ていただけるが、その時に保護者に向かってそんな話はしにくい。PTAの役員をしてくださる方も苦労されておられると思う。</p>
事務局	<p>今、委員から出ておりました保護者のことだが、ここが不登校のところにも大きく影響をしていると思う。今までだと保護者の方が子どもに行き渋りを起こしたら、押し出すとか、何らかの手立てを打って学校に連れ出すとかしていただいていたが、最近の傾向として、子どもが行かないと言ったら、それを許して認められる家庭が多いというところがある。押し出されないというところで、こういったところをどうするのかというのが課題になっている。何とかこれをしない</p>

	と不登校出現率がこのままでいってしまうのではないかと感じている。
委員	<p>一番感じるのが、お父さん、お母さんにこのことを伝えたいということがあるが難しいということ。今年、紙飛行機を作って飛ばす会を考えている。広島福山にそのグループがあり、何年か前に知りえた。そのとおりに折って作っても、まっすぐ飛ぶ飛行機と、全然飛ばずに落ちてしまう飛行機もあるのだが、でも飛ばしたら50メートル、60メートルぐらいスーッと行く。これには大人の方が感激してしまう。こういう場を今年の9月に保育園と小学校の子どもたちと父兄を集めて、教育を語る会ではないバージョンで実施する。これを今年やってみて、触れ合える機会を大事だというふうに気づいていただければ、もう一つの来年以降の教育を語る会の趣向を変えてもいいなというように思っている。とにかくお父さん、お母さんが来ていただけるように地域活動にも参加できるような、そういう土台を地域の方が作る必要があると思う。問題は問題だと考えず、我々がどう課題を作るかだと思う。</p>
会長	<p>大きな議題の2番目も残っているので細かい話はできないが、「倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成」については今の話と関係するかもしれない。「家庭・地域と連携した開かれた学校づくりの推進」、「よりよい倉吉教育をめざして」をまとめて、気づかれたこと、おっしゃりたいことはないか。</p>
委員	<p>小学校に上がる前に保育園の生活、幼稚園の生活がある。今言われる保護者との連携とかコミュニケーションの部分など、基礎が保育園・幼稚園であると痛感している。今は0歳児から預かっている子どももすごく多く、育休明けからもうすでに保育園で生活をしている子どもたちがほとんどという状況である。今日、2歳児の親子クラス会を実施し、全員参加であったが、保護者の方に「やがては小学校に行ってこんなふうな生活を、中学校に行ったらこうなんですよ」というような、もう少し長いスパンで子どもたちの生活を捉えてもらうような仕掛けを園から始めていく必要があるのではと感じている。</p> <p>先ほどあった体力づくりは私たちもやはり意識をしていて、本当によく転ぶ子どもが多くて、それに対して園の方もひやひやする部分もある。ここ何年か入園の時に、園でのリスクというのを理解をさせていただいている。「昔の子どもたちのように、転びますと怪我をします。こんなトラブルもあります。子ども同士が仲良くなるためのやりとりのなかで引っかきもあれば、究極噛みつきもあれば、様々な子どもがいるので、そういうことが一切ゼロだとは私は言いません」ということははっきり言わせていただいて、怪我をするのであれば、大きな怪我に繋がらないような、せめて小さい怪我くらいでとどめておくくらいの体力をつけていかないといけないなということで、朝マラソンをしたりとか、園でできる工夫をしながら進めている。データ化はしていないが、たとえば風邪をひく子どもが少し少なくなったりとか、去年に比べてインフルエンザの罹患率が減ったりしてきている。その程度だが、それでも続けていくということが大事であるし、そのあたりを関心のある時期の保護者に届けたい。愛着形成が今難しくなっている。そこから出る問題というのもすごく大きくて、やはりそれが小学校、中学校に繋がっていくケースもある。今本当に気になる子どもも増える傾向であるし、その面というのは園のあたりから出てきている。その対策というのも、当然私たちも考えていかないといけない状況であるが、本当に小学校からとか中学校からとかよりも、本当に0歳児から始まっているということを最近痛感している。年中ぐらいから悩みを持たれるお母さんもおられる。0歳児のころに十分にかかわる機会がなくて、仕事一本でみたいなところがあって、やはりそれが年中とか年長ぐらいに、若干そこが不十分なためについていうのが何気に出てきているのではないかと、ということで、「忙しいでしょうが、毎日何も言わないで3分間ぎゅっとしてあげてください」というようなことを具体的にアドバイスをしている。「必ず変化はやってくると信じてください」ということで頑張っておられるお母さん</p>

	もいる。やはり何かしら3歳までというのは大事だと思っているので、今、こういう話を聞きながら、また園に持って帰って職員と考えたり保護者さんに提供したりということをやっつけていかないといけないと痛感している。
委員	少し話は違うが、私のところの学校で、最近登校に防犯という意味で高齢者の方についていただいている。ありがたいと思っているが、高齢者の方から「今日なあ、くそばばあって言われた」と愚痴が聞かれる。よく聞いてみると、細かいことまでたくさん注意されるので、注意が過ぎるのかなと感じた。ついて行かれる方は本当に心配だから「きちんと行かさないといけない」「きちんと並ばせないといけない」という思いで言っておられるのだろうが、私たち地区の中では同居といえども、家の中では別々に暮らしておられるという方が多いので、それが出るのかなと感じた。同居の家は、おじいちゃん、おばあちゃんに怒られても笑って受け止められる子が多いが、そういうところも関係しているのではと思う。ただ、せっかく高齢者の方も心配で、「私が出てあげる。」「俺が出たる。」と言ってくださっているのに、子どもに「くそばばあ」なんて言われると、ちょっとどうかと思う。そのあたりがなんか対策ができたらと思うが、皆さんのご意見をいただければありがたい。
委員	子どもたちにとって、何でもしてもらおうことが当たり前になってしまっている。地域の方にしてもらおうのが当たり前で、自分たちが返すことを親がしないから、子どもたちも「なんでおる」となる。私たち大人が言っても、親が言っても被害者ぶる。怒られ慣れてない子がすごく多い。怒られたことに対して、自分が悪かったということよりも、何で怒られなければならないというのが先に出てしまっている。そこを保護者がしっかりとしていけないといけない。登下校の見守りをしてくださる地域の方が、けっして暇なわけではない。私たち保護者ができないことを代わりにしてくださっているのに、それをもう少しみんなが知る必要があるというところは大きい。社小学校はすごく校長先生が保護者の方に訴えかけてくださり、「こういう活動をしてくださっている方が、ここの誰々さんです。」というのを全部言ってくださる。子どもたちに地域の方々がこれだけ関わって、いろんなことをしてくださっているということを知ってもらおうという活動をしてくださっている。ある程度は広まってはきているが、私も役をしているから知っているということもある。地域の方も子どもたちに声をかけるのを不審者だと思われてしまうので躊躇するといわれる方もある。
教育長	不審者扱いか。
委員	警察の規定によると、子どもたちが不審者だと思ったら不審者っていう扱いになる。いくら近所の人たちが見守っていたとしても、怖いと思ったらそう言われてしまうので、声をかけないようにになってしまう。難しい世の中になった。
教育長	短期的に見たら「くそばばあ」もあるが、でもその子たちが中学生ぐらいになると、本当に小学校のころから地域の皆さんに面倒を見てもらったという意識を持って育っている。中学校で今、地域貢献活動を何とか進めていこうという動きもやっているが、生徒会の中心になっている子たちを集めると、「小学校の時こうだったよね」と言ったら「はい」とちゃんと答える。「じゃあ何か恩返しできることはないか」と言ったら、いろんなことを考えてくる。そういうふうで育っている。「くそばばあ」という言葉はいらないが、もう少し何年かのスパンで見てもらおうと育っていくのではという思いもある。
委員	長年安全ボランティアを続けてもらっている、いつもやってもらっているのが常態化しているので、保護者にとっても、やってもらって当たり前みたいなどころになっている部分もある。学校が説明し直してくださるというのは必要なと思う。それから保護者へも学習してもらいたい、研修してもらいたいと感じる。学校の先生が言いたいことを誰か他の第三者に言ってもらおう、伝えてもらうような仕掛けが必要ではないか。やはり先生からというのはなかなか伝わりきらないし、言いきれないという部分もあるのではないかと思います。

	<p>責任と義務と権利等いろいろ言われる。権利の主張が多くなってきて、自分たちの責任とか果たすべき義務の部分が欠けた状態で権利を主張される方が多くなったと感じることがあり、これは大変なことだと思っている。お互い様の支え合い、助け合いの中で社会をつくっていくこと、自分の権利も主張したいところだけれど我慢しないといけないところもあるということを経験として学んでいただきたいことである。家庭でもこういうことをやってくささいっていうことをお伝えしないとけないのではないかと思う。</p>
会長	<p>大人同士がどういふふうにして理解を深めるかということだと思ふ。いろいろところで活動している人もあるし、そのことで悩んだりしている方もあると思ふ。地道にやるしかないという感じがする。</p> <p>時間がそろそろ迫ってきた。2番目のことを、ずっと話しているわけだが、小中学校の適正配置等について、現状を紹介していただきたい。今どういふ状態になっているのか。</p>
事務局	<p>協議会を立ち上げようということ以前から取り組んでいる。しかし、地域の皆様の意見がしっかり協議会で話し合うまでにいってないということで、まずはしっかり教育委員会のほうも地域の意見を聞いて吸い上げていくという段階である。その上で協議会を立ち上げてほしいという意見があるので、現段階ではそれぞれの地域の代表の方々のご意見を聞かせていただいて、調整をさせていただいている。</p> <p>協議会の立ち上げというところでなくて、その前の段階というところでご理解をいただきたい。</p>
委員	<p>代表の方の意見というのは誰のことを言っているのか。保護者か。</p>
事務局	<p>今のところ、地域の代表として自治公の会長さん等とお話をさせていただいている。</p>
委員	<p>それは地域の方の皆さんの意見を吸い取った上での意見か。それともその人個人の意見か。</p>
事務局	<p>それぞれで地域の意見を聞いておられますので、そういったところを聞かせていただいている。</p>
委員	<p>今の意見の補足ではないが、正直言つて、協議会の代表を自治連のそれぞれの会長がやっているが、どこまで地域の意見を集約しているかということについていけば、厳密に言えば難しい。もっと言えば、どういふふう意見集約をしていくのかについても、いろいろな考え方がもちろんあるわけで、短兵急にできるものではない。最低一年ぐらひは、いろいろな意見を吸収できるような形にならないと、代表と急に言われてもおこがましいといふか、いい加減にということになってしまう。そこが悩みどころである。</p> <p>6年とか7年ぐらひは経っているが、ステップの歩み方をやはり間違えたといふのは思っている。どちらが間違いだといふことではなくて、もちろんそれは全体の問題ではあるが、議論のつめ方としては間違えたといふふうには思っている。これまではこれまでとして、これからどうするかについて、正直申し上げて、子どもたちの数が少なく、将来的にも見通せるわけで、そのことを想定すれば再編といふのは必至かなといふふうには思ふ。けれども、「数が少ないから何で隣の大きな学校と統合しなければならないのか」といふ意見に対して反論できない。では、人が少なくなったら保育園もなくなる、小学校もなくなる、公民館もなくなるのかみたいな議論までされてしまえば、もう太刀打ちができない。「やはり子どもらは地域におらんと、小学校がないと地域の力みたいなものが沸かん」といふふうには言われると、これには正直耐えられない。そこの葛藤と5年先の地域の活性化ということをお考えた時に、教育委員会は適正配置といふふうにはいうが、あくまでも再編統合なわけで、そこの進め方を、本当に正直言つて7年間悩んできたが妙案はない。少なくともいいといふ結論が出れば一番いいと思ふけれど</p>

	<p>商売柄、いろんな学校の先生とお話をするのだが、学校の先生も仕事が多すぎて本当に悲鳴をあげている。報告書だけでもすごくたくさんあり、報告書を書くだけでも時間がない。夜8時とか9時でも注文の電話がかかってくる。学校の先生方は、家庭に帰られてもいい時間でも普通に仕事しておられる。学校も今の教員の人数で、少ない配置で余裕をもって教育をされたらいいのにとずっと思っている。</p>
委員	<p>P T A連合会の会長を務めさせていただいた時に、私自身も会が多いと言われていたが、先生たちはもっと多い。「1週間のうちで今日は早く帰れる」と言っても7時を回っている。会議がある日は9時、10時になってしまう。それで普段の仕事量もこなし、こっちのこともして、あれもこれも考えて、働き方改革ではないが、教員の方の負担はとてつもない。それで倒れるなっていうほうが無理ではないかというぐらいの仕事量をされている。その負担が少しでも軽くなるのであればと思う。状況が変わればいいのになと思う。</p>
教育長	<p>今は学校教育に予算も増えない、人も増えない状況の中であれこれと要求され続けてきている。それに対しては私も快く思っていない部分はある。だけど、生まれる子どもの数が少ない中で、この子たちに今きちんと力をつけて大人にしておかないと日本が保てないということを今、国は考えている。言い換えると倉吉が保てない。もっと言うと、自分の住んでいる地域が保てない。今いる子が、みんな残ることはない。絶対にどこかに出ていくが、一人二人は残るかもしれない。その残った時にこの地域を「俺が頑張る」「私が頑張る」と言えるようにしていかないといけない。そのためにはある程度の人数が必要だと思っているという説明を各地でしてきている。おっしゃられるように、あまり何年もかかると保護者が保護者の立場でなくなってしまう人がある。何年にと議会でも求められたが、それは「今の段階ではとてつもない、申し訳ない」と言っている。そこを何とか見つけていきたい。</p> <p>それから働き方改革のことは、今、衛生安全推進委員会という会で、学校から代表に来てもらって、本当にやめれるもの、すぐ取り組めれる取り組みを少しずつ整理していつている。端的にいうと、「運動会やめられますか」「文化祭やめられますか」と言ったら「やめれるわけない」と保護者の方もおっしゃると思う。だったらやめられるものを、どうやって探していくのかということになる。それから教員自身の遅くまで残っていると「俺は仕事したんだ」というような、そういう意識を捨てていかなければならない。そういうところから、少しずつできることを探そうとしている。すぐに効果といわれてもできないが、今、努力はしているところである。</p>
委員	<p>時間がもうなくなってきたが、最初に中学校の配置について意見もあればいいことであつたので申し上げたい。</p> <p>この学校再編の一番最初のところからこの会にかかわってきて、自分自身は中学校区の校区編成について、例えば社が3つの中学校に分かれるということのないようにするなど、もう一度点検し直してはどうかと思っている。中学校区の編成をして中学校区を決めて、地域のことでも中学校区の単位で考えていけばどうかと思う。</p> <p>児童数、人口数が減っていくことを考えたら、小学校区ではもたないのではないか。地域を保っていくのに、支えていく人口が今の小学校区の持ち上がりでいくともたないのではないかと思う。そうすると中学校区の中で、小・中の先生も含めて、地域の間人も含めて、仕事の分担ができるものはして、やっていったらどうだろうか。</p>

教育長	<p>話し合いをしてもらうのに案もなしにというわけにはいかないので、とりあえず案は出すのだが、けっしてそのとおりでないといけないとは思っていない。「うん」と言ってもらえるように修正していただければと思っている。こちらが力づくでやってしまうようなことで村や町が二分するみたいなことはいけないと思っている。少なくとも半分以上の方が「うん」と言ってくださる方法を探していきたいと思っている。今、中学校区で考えてはというご意見は、非常に選択肢としてはいいのかなと思う。</p>
委員	<p>防災の関係でいくと、川を渡るというのはどうなのかと思っている。災害が起こりそうになった時に川を渡って避難をするのは大変なことである。</p>
教育長	<p>古くから国境も山や川がそのまま国境になっているところがたくさんあるので、それも大事だと思う。</p> <p>中学校をどこに行くかという校区のこともあるし、小学校をどこに行くかという校区のこと当然影響が出てくると思う。</p> <p>選択制にしてはという話もあるが、ただこれは全国的にみると失敗している。学校選択にすると差ができてしまい、東京都など全部やめた。たしか尾道もやめたのではなかったかと思うので、これはあまり選択肢としてよくないと思っている。よほどの自治公の繋がり「こっち」とおっしゃる場合には特例があってもいいと思うが、最初からどっちでもいいというのは、ないほうがいいと思っている。</p>
委員	<p>統一はしてほしい。社小学校は久米中校区として活動するが、三つの小学校に分かれるので子どもたちは混乱してしまうし、保護者も混乱する。西中学校の集いに「西中校区の保護者は協力してください」と言われて行かれた方が、「うちは久米中なのにな」ということもあったので、そのあたりも一つになればと思う。なぜ社がということだが、広いからというのもあると思う。東中に行ってる子は東中が近い。西中に行ってる子は西中が近いというのはわかる。秋喜の方から、西中が目と鼻の先にあるのに、久米中まで行くのかと言われたら「うん」というところもある。</p>
教育長	<p>おっしゃるとおりで、久米中を維持するためにどうするかということもすごく大事な話で、社の括りだったらみんな久米中っていう考え方も、それはありだと思うが、秋喜とか秋喜新町、あの辺りの方は「西中がいい」とかつての保護者はおっしゃっておられた。そういうところをどう調整していくかということも話し合いの中でやらしてもらいたい。</p>
委員	<p>西中には明倫小からは全員、小鴨小からは全員、上小鴨小からは一部が入学する。社小は一部が入学する。クラスが4クラスから5クラスあるが、小鴨の子はクラスに5人～7人、場合によっては10人くらいいるのに、社は1人とかの場合もある。最初は気を使って多少同じクラスにしてくださったりするのだが、環境に馴染めずに学校に行きたくなくなってしまうという子も出ている。他の小学校の子たちは、さようならではなくて、みんなで一緒に進学しようとなっているので、できれば6年間一緒に過ごした子たちと、あと3年過ごさせたい。高校生になったら自分たちで進路を決めていくので、同じようにさせてやれたらという思いが親としてはある。</p>
事務局	<p>今、委員がおっしゃっているようなことを、本年度決めるわけではない。来年度も決めるわけではないが、今後この中学校のことにしても、こうやって問題点とか、あるいはこうあるべきではないかというようなご意見をこの会でいただきたい。</p>

会長	<p>この課題は、長い間かかって、なかなか結論は出ないと思うが、先送りするということは事態を悪化させることになる。必ずしも最善にはならないかもしれないが、次善はどこにあるかということをつも考えながらやっていくしかないと思う。実際に動かれる教育委員会の方には大変なことだと思うが、この審議会としては応援をしていきたいと思っている。委員の皆さんがそういうお気持ちだと思うので、ぜひ頑張っていたきたい。</p> <p>そろそろ時間もなくなっているがよろしいか。それでは、これで協議を終わりたい。</p>
事務局	<p>次回、中学校の件についてもご検討願いたい。次の開催日程については、だいたい10月ごろを予定してよろしいか。</p> <p>日にちについては会長と相談して決定するということをご了解いただきたい。</p>
教育長	<p>長時間にわたり、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。</p>
4 閉会	